

大規模災害から命と暮らしを守るための 避難所運営の手引き

～男女共同参画の視点を取り入れて～



この避難所運営の手引きは、東日本大震災などの大規模災害の経験や課題を踏まえ作成したものです。

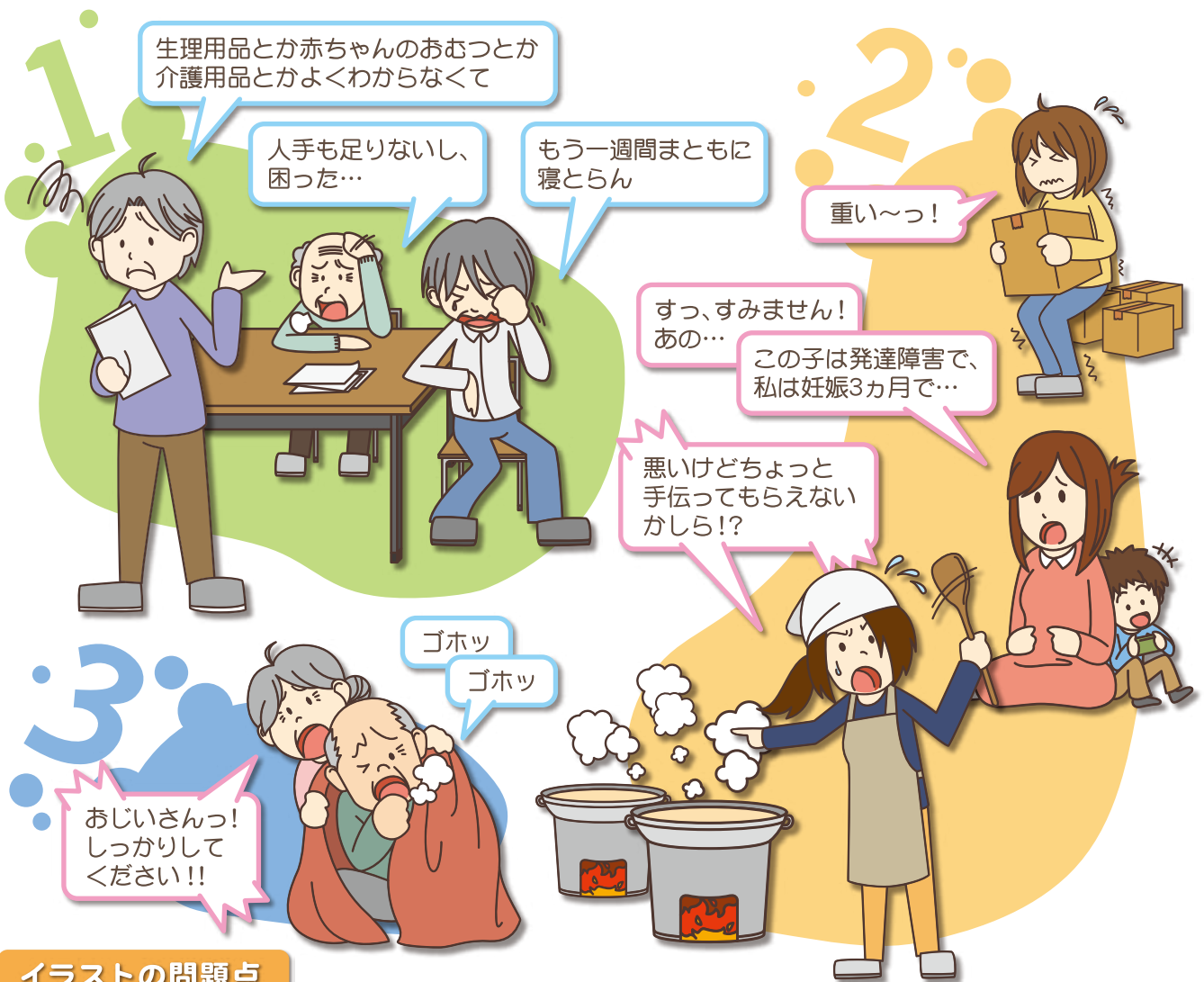
介護や子育て、障害者支援など地域の安全・安心を守るためには女性の声も欠かせません。そのため、平常時より男女共同参画の視点からの災害対応について理解しておくことが重要です。

この度、トイレ・衛生・防犯対策など、女性や要配慮者にもやさしい避難所運営の手引きを作成しました。女性リーダーと防災担当者が一緒に話し合い、各地区で作成している防災マニュアルなどに盛り込むための参考としていただければ幸いです。

1. 避難生活における問題

- 避難所は、在宅避難者の支援も含めて、避難生活者のみなさんの命と暮らしを守る地域の災害対応の拠点です。
- 健康を維持し、安全・安心な避難所運営を行うためにも、地域に暮らす多様な人たちの視点に立った運営をしていくことが求められています。（例：介護、育児、慢性疾患、障害者など）
- 家庭生活の知識や、経験が豊かな女性の意見も反映されるよう、リーダー層に女性を増やしていくことも、住民の命と健康を守ることに直結します。

この避難所運営の問題は、どこにありますか？



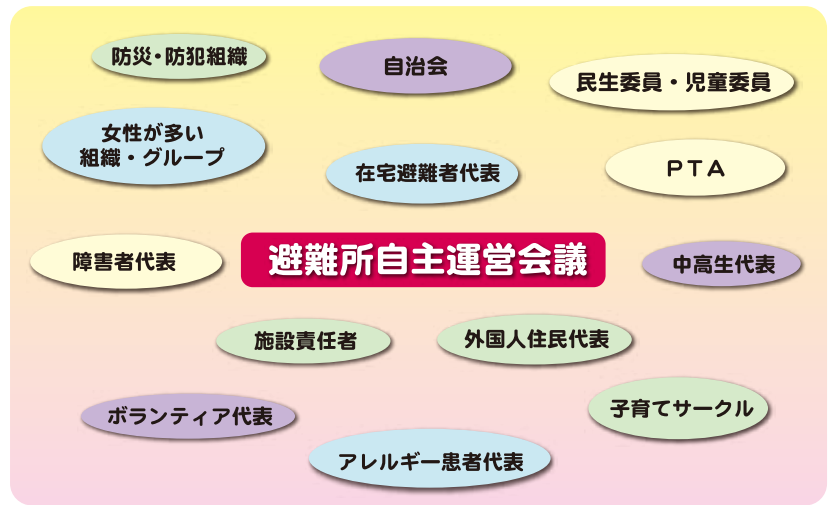
イラストの問題点

- ① 地域の少数の男性役員が責任を一手に引き受け、疲労困ぱいしている。
- ② 妊娠初期の女性、育児、炊き出し、食材の運搬などにおわれ、女性も疲労困ぱいしている。
- ③ 高齢者・慢性疾患の人・障害者が健康を損ねたり、つらい状況に置かれても、相談できていない。

2. なぜ、避難所運営に女性の視点と参画が必要なのでしょう？

避難所運営づくりのポイント

- 女性と男性、両方の責任者・リーダーを配置しましょう。
- 役割ごとに班をつくり、性別が偏らないように女性も男性も共に入るようにしましょう。
- 生活者や少数派の視点に立ったニーズが把握できるように、多様な立場の代表が入る形で会議を実施しましょう。
- さまざまな事情で在宅避難している人への物資の配分にも配慮しましょう。



避難所生活で起こるさまざまな問題

避難所運営の意思決定が男性だけで、女性のリーダーがいないと、さまざまな問題が生じます。

●避難所生活に必要な配慮・環境は男女で異なります。プライバシー・衛生・安全面で被災地での女性の環境は厳しいものであった。

- 男女ともに着替えの部屋がなかった。
- 生理用品・衛生用品が不足し、生理の際に困った。
- 性犯罪の被害に遭った。

●避難所生活での、衛生や栄養の問題があった。

- ノロウイルスや食中毒の問題が心配。
- 子どもが食物アレルギーで避難所の食事が食べられない。
- 離乳食・トロミ食・低塩分食がない。

●乳幼児、介助・介護などの配慮が必要な家族がいる場合、意見を言う場がない、相談しやすい人がいない可能性があります。

介護用のLLのおむつが必要なのに言い出せない。



赤ちゃんが泣くので避難所を出ざるを得ない。

子どもが騒ぐと怒鳴る大人がいて、子どもたちがストレスで体調面に異変をおこしたケースもある。

粉ミルクがあっても哺乳瓶と消毒剤がない。授乳スペースがない。



仮設トイレは和式もあり、手すりがなくて使い辛い。



寝たきりの親や認知症の夫を抱えているため、壊れた家で暮らしている。





3. 避難所運営のポイント (詳しくは9ページ以降のチェックシートを参照してください)



(1) 多様な人々が一緒に過ごせる場所づくり

避難所生活の要望	要望が言い出せず、健康リスクが高まり、命を落とすことにもなりかねません。(特に、高齢者・障害者・子ども・病気の人・女性など)
負担の偏りの解消	一部の男性役員たちに責任が集中する形では過労傾向となる上、衛生・栄養・介護・育児などの知識・経験が避難所運営に活かされず、全体にも影響がでます。
平等な役割分担	誰でもできることは性別や年齢に関係なく担ってもらい(例：炊き出し)、女性リーダーを登用したり、障害者や介護経験者にも運営に参画してもらいましょう。

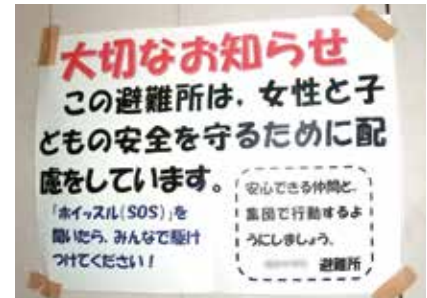
さまざまな情報・支援物資が避難所に集まります。日頃から地域でどのように対応するかを考えておくことが大切です。

(2) 施設の使い方

平常時から、地域住民および施設管理者と、施設の利用やレイアウト、運営方法等について話し合いを持っておきましょう。特に、右のページの必要と考えられる個別のスペースを含めて、女性の参加のもとで決めるべきものが多くありますので、チェックシート(9・10ページ参照)で確認してください。

(3) 暴力防止・安全の確保(性暴力も含む)

- ・生活環境の激変によるDVやセクハラ、ストーカー、性暴力、虐待を防ぐことが大切です。
- ・災害直後の段階から、照明をしっかりと確保できるようにしましょう。
- ・昼夜問わず、大勢の人がいる場所でも暴力・性暴力は起こり得ます。暴力・性暴力を許さない環境づくりが大切です。
- ・防犯担当も男女両方が担い、特に被害を受けやすい女性と子どもが相談しやすい安全な環境改善に努めましょう。
- ・犯罪行為は許されないこと、何か問題に気づいたらすぐに通報できるよう、警察との連携、見回りの強化、防犯ブザーの配布などを積極的に行いましょう。



(4) 心身の健康の維持

- ・過労による心身の疲れや辛さを和らげるよう、休息のための時間・空間を確保しましょう。
- ・責任や作業は一部の人で抱えこまずに、みんなで分担して行いましょう。
- ・災害関連死を防ぐために、見守りや声掛けをしましょう。
- ・身体機能維持とエコノミー症候群の防止のために、衛生・育児・介護およびトイレ環境の整備、水分補給の徹底とともに、軽い運動や散歩を行いましょう。

(5) トイレ・衛生

トイレ	男女別に分け、設置数は男性トイレ：女性トイレ = 1：3の割合を目指しましょう。
	介助が必要な人や性同一性障害の人にも使える多目的トイレを設置しましょう。
衛生	災害直後から衛生対応として、トイレ(汚物処理・清掃)と感染症対策についても住民で取り組むことができるようにしておきましょう。

4. 誰もが安全・安心な避難所とは？

必要と考えられる個別のスペース(例)

平常時から、施設管理者と施設の利用やレイアウトなどについて話し合いを持っておきましょう。
「必要と考えられるスペース」は、マニュアルを改訂する際に、会議室などを借りられるよう学校と協議調整しておくことも大切です。

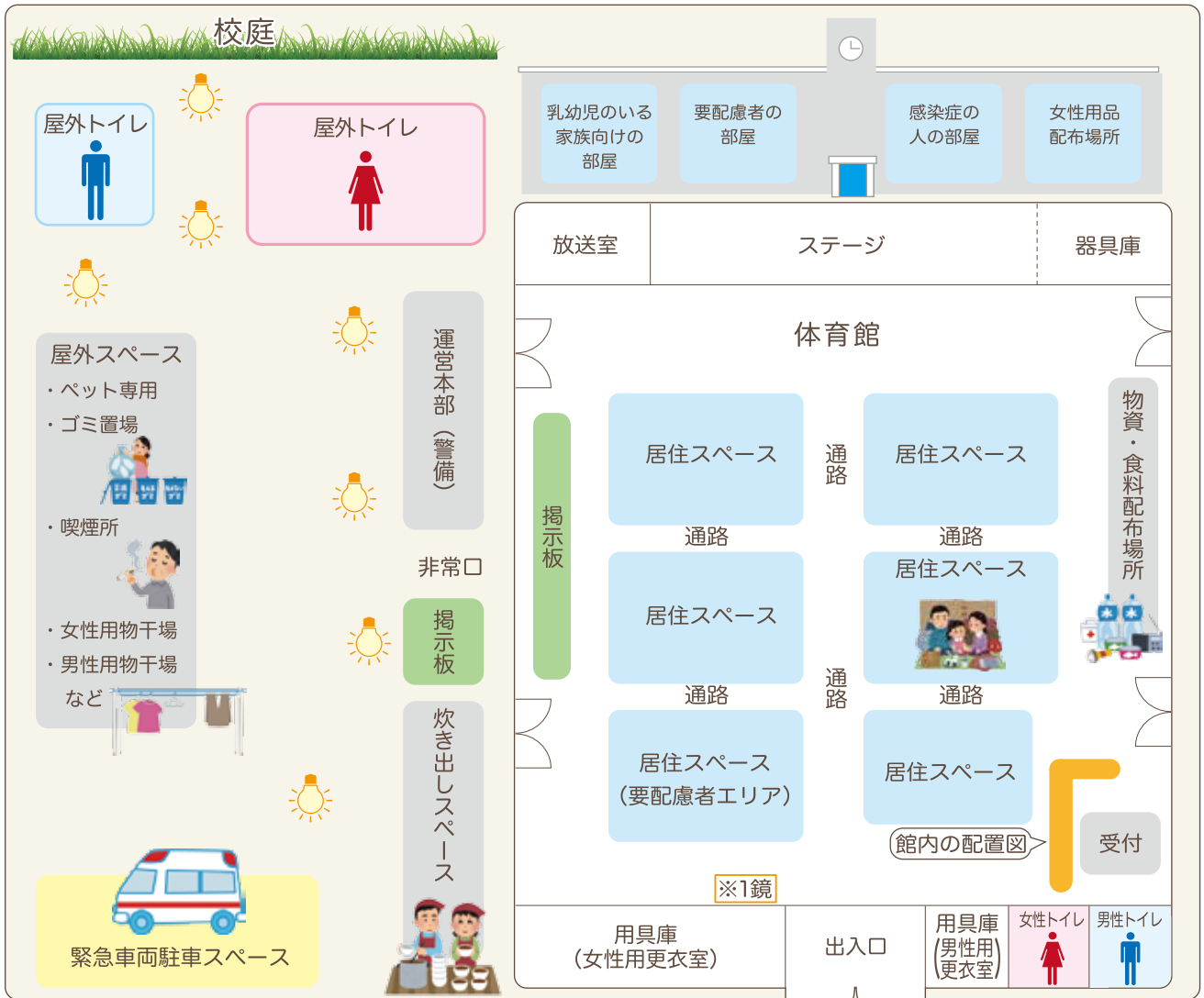
- 男女別の更衣室・休憩・相談室
- 女性用品の配布場所
- 単身女性や母子家庭向け
- 介護・介助が必要な人向け(高齢者・障害者)
- 感染症の人など看護向け
- 授乳・おむつ替え向け
- 子ども向け(勉強・遊びなど)
- 乳幼児のいる家族向け

※1 鏡などの物品は余震などで倒れるので設置箇所を考えましょう ※2 補助犬などについても、事前に協議調整しておきましょう



「プライベートルーム」
着替えや授乳等として使用するために
各防災倉庫に設置。

レイアウトの例 (校舎の利用についても施設管理者と事前に協議しましょう)



給水 生存に必要な摂取量 → 一人当たり 2.5ℓ～3ℓ/日

水の使用判断例	飲料用・調理用	手洗い用 洗顔・歯磨き用 食器洗い用	風呂用・洗濯用	トイレ用
飲料用 (ペットボトル)	◎	○	△	△
避難所の受水槽	◎ (学校が長期休みの際は 使用不可)	◎ (学校が長期休みの際は 使用不可)	○ (学校が長期休みの際は 使用不可)	○
給水車の水	◎	◎	○	○
井戸水	△	△	△	◎
プールの水、河川の水	×	×	×	◎

◎: 最適な使い方 ○: 使用可 △: 含有成分によっては使用不可 ×: 使用不可 ※トイレが確保できたら、ルールを決めて衛生的に使用しましょう

5. 配慮が必要な人々のニーズを聞く

避難所では、困りごとや不足している物資に関する要望をなかなか口にできません。特に、女性や高齢者は、困っていても我慢しがちで、ニーズを知ることは容易ではありません。誰にとっても、安全・安心な避難所であるためには、みんなで協力し、意見の言いやすい環境をつくりましょう。

こんなことに気をつけて

女性

■困っていること

- プライバシー、トイレ、生理用品
- 下着を干す場所、治安面の不安
- 家族の世話、保育、介護

■必要とする支援・配慮

- 男女別更衣室、トイレ
- 女性専用の物干し場
- 物資の女性担当者
- 防犯対策



乳幼児・妊産婦

■困っていること

- おむつ、衛生用品（ウェットティッシュ等）
- 粉ミルク（お湯、哺乳瓶、消毒剤）、離乳食
- おもちゃ、遊び場、授乳場所
- 妊産婦は安静が必要
- 栄養面、寒さ、医療・生育面の不安

■必要とする支援・配慮

- 衣類、毛布の配慮（多めに）
- 医療支援、相談支援
- 授乳室、オムツ替えの場所、温かい部屋
- 間仕切り



保育園児・幼稚園児・小学生

■困っていること

- おもちゃ、遊び場
- 環境変化に対する不安、赤ちゃん返り、甘えてしまう

■必要とする支援

- 親子で安心して過ごせる時間・場所の確保
- 心理面の専門支援
- 親やボランティアによる支援



中学生・高校生

■困っていること

- 周辺環境や、将来への不安、進学の悩み
- 親への気遣い、避難所の運営参加で疲労（言い出せない）

■必要とする支援

- 中高生代表者（男女）にも避難所運営に参画してもらい意見が言えるようにする
- 勉強スペースの確保
- 親の支援や心理面の専門支援



高齢者、介護や看護を必要とする方

■困っていること

- 食事、排泄、着替えなどの日常生活全般
- 階段や段差がある、手すりがない
- 床での寝起きや座ること
- 薬、病気のこと ● 周囲への気遣い

■必要とする支援

- おむつ、衛生用品、スプーン、ストローなどの介助補助具
- 洋式トイレ、ベッドやいす、手すり、杖
- 医療支援や家族への声掛け
- 介助者や付き添い、話し相手 ● 間仕切り
- 食事、排泄、着替えなどの介助

認知症の方

■困っていること

- 状況が理解できない、判断できない、不安・要望が伝えられない
- 感情の起伏、記憶の欠落、徘徊
- 周囲への気遣い（家族）

■必要とする支援・配慮

- 落ち着ける部屋、家族と同居
- 医療支援や家族への声掛け



障害のある方

■困っていること

- 和式トイレが多いこと・車いすの移動
- トイレの場所が離れている
- 慣れない場所での生活のため、パニックを起こしやすい
- 情報が手に入りにくい、理解しづらい

■必要とする支援・配慮

- きめ細やかな情報提供の手法の工夫
- 個別スペースの用意
- 車いすが通れるスペース
- 車いす、歩行器、杖、段差の解消、洋式トイレ

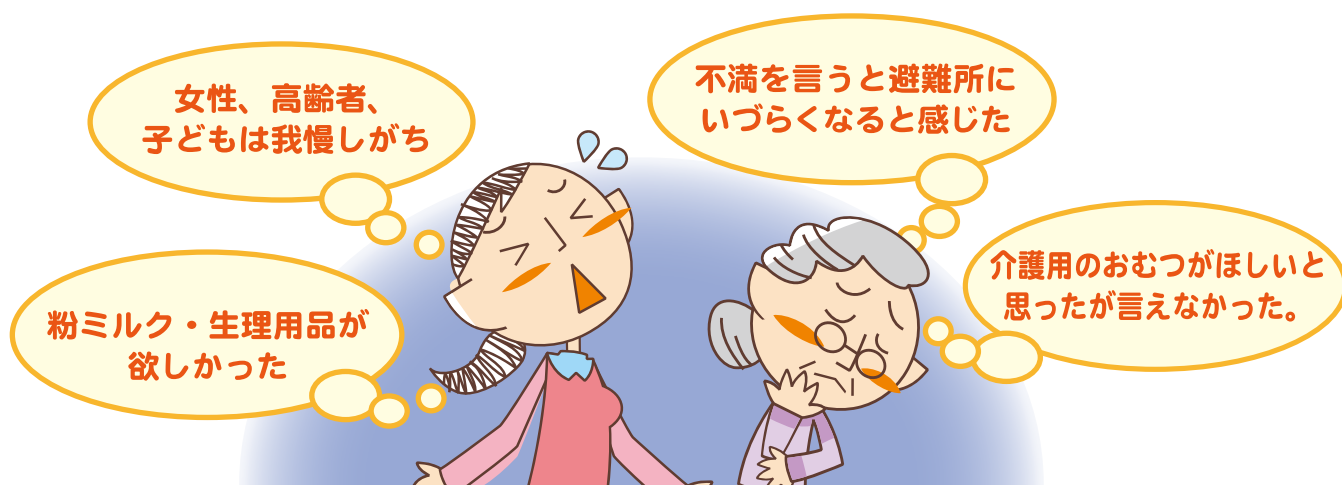
外国人の方

■困っていること

- 日本語でのコミュニケーションがうまくできず情報を入手しにくい、要望が伝えられない
- 防災に関する用語が理解できない
- 生活習慣や食事、宗教などの面で困る

■必要とする支援・配慮

- 日本語にルビを入れる、やさしい日本語
- 多国語や母国語による情報提供、支援者
- ピクトグラムなどの表示（7ページ参照）



地域で女性リーダーを増やしましょう

避難所では、一人ひとりが個別に相談すると、苦情として受け取られがちです。

相談しやすく、困りごとを取りまとめてくれる女性がリーダーとして運営に関わることは、避難者が少しでも快適に生活することに繋がります。

運営全般や物資面、環境のあり方について話し合う場に複数の女性が参加し、指導的立場にも入っていることで、避難生活が改善した例があります。（7ページ参照）

四日市市では、防災・減災女性セミナーや男女共同参画の視点を取り入れた地区防災セミナーを開催し、地域での女性リーダーの発掘・育成に取り組んでいます。

●地区でのセミナーの様子



「男女共同参画の視点から防災・まちづくりを考える」グループディスカッション

6. 事例紹介

女性リーダーの活躍で環境が改善した例

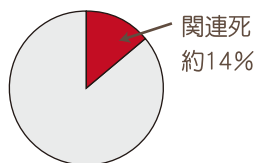
東日本大震災では、避難所や在宅避難生活を送る多くの被災者が、生活環境の悪化によって体調を崩したり命を落としたりしました。

しかし宮城県のある町では、地域の女性が豊かな生活経験・知恵をもとに防災リーダーとして活躍したことから、生活困難な高齢者向けのトイレの整備や介護食の提供、食物アレルギーの人への配慮、自宅で避難生活を余儀なくされている高齢者や体が不自由な方への物資提供など、的確な判断・提言がなされ、質の高い助け合い活動が行われました。

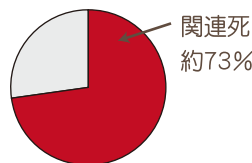


過去の大災害で、避難生活などにより命を落とした人(関連死)の多くが高齢者です。
(平成27年9月30日現在)

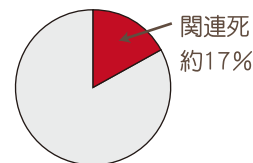
阪神・淡路大震災



新潟県中越地震



東日本大震災



過去の災害で、女性専用の安心スペースを確保した例

2011年 東日本大震災

約2,000人の原発避難者を受け入れた大型施設「ビックパレット福島」では、女性専用ルームを設けて、着替えや授乳、休息、下着の配布などが行われました。

(ビックパレット福島)



女性専用スペースの入口

2014年 豪雨災害(広島市)

ある避難所では、地域の女性リーダーたちが、物資配布や被災者の相談対応をするなど、きめ細やかな避難所運営活動が行われました。

2015年 ネパール大地震

被災直後から地域の女性たちが各避難所で、女性専用の「セーフスペース」を設置しました。



女性専用スペースソファ、鏡など設置

避難所情報伝達キット - 絵表示・多言語 - (通称: つ・た・わ・るキット)

三重県では、多言語で書かれた掲示物などの支援ツールを作成しています
貸出申込・お問い合わせ先: 三重県 環境生活部 ダイバーシティ社会推進課 TEL059-224-2755

●ピクトグラムの例



Nursing room 英 哺乳室 葡
Sala de amamentação 葡
Sala de lactancia 英
作成: 三重県



ひなんじよ 避難所
Evacuation shelter 英 避難所 葡
Lugar de abrigo 葡 避難所 葡
အိမ်ရာခန်းမ 英 避難所 英
Tempat pengungsian 英
作成: 三重県



おんな 女
Women's changing room 英 女更衣室 葡
Vestidário Feminino 葡
Vestuario damas 葡
作成: 三重県



きゆうごしよ 急救室
First Aid 英 急救室 葡
Enfermaria 葡
Primeros auxilios 葡
作成: 三重県



おとこ 男
Men's changing room 英 男更衣室 葡
Vestidário Masculino 葡
Vestuario caballeros 葡
作成: 三重県



おしらせコーナー
Information 英 信息角 葡
Informações 葡
Informaciones 葡
作成: 三重県



ごみばこ
Trash box 英 垃圾箱 葡
Lixeira 葡
Tacho de basura 葡
作成: 三重県



トイレ
Toilet 英 厕所 葡
Sanitário 葡
Baño 葡
作成: 三重県



たべもの
Rations 英 食物 葡
Refeição 葡
Alimentos 葡
作成: 三重県

7. 避難生活に必要な物品

備蓄の品目や数量について、男女のニーズの違いや子育て家庭などのニーズに配慮することが必要です。品目や数量については、女性も参画して、検討するとよいでしょう。食料、生活必需品などについては、個人によってニーズも異なります。**最低7日間**の量を備蓄することが望まれますので、ローリングストックを行いながら各人の備えを促すとよいでしょう。

遠方に通勤している人や持病のお持ちの方は帰宅が困難になる可能性もあるので、日頃から必要な物品を携帯したり、職場に備蓄しておくことも大切です。

※ローリングストックとは、定期的（1ヶ月に1～2度）に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法です。食べながら備えるため、消費期限の短いレトルト食品なども非常食として扱えます

備蓄チェックシート

女性用品

- 生理用ナプキン
- サニタリーショーツ（生理用下着）
- 防犯用ホイッスル・ブザー
- 中身の見えないごみ袋またはチャックつきのビニール袋
- 化粧水、保湿クリームなど
- 下着（いろいろな種類）
- 体ふき用大判厚地シート（シャワーや入浴ができない時）

日頃からの
個人の備えも
大切です！



乳幼児用品

- 粉ミルク（アレルギー用含む）
- 乳幼児用飲料水（軟水）
- 哺乳瓶
- 哺乳瓶用の消毒剤・器具
- 湯沸かし器具
（電気が使えない際も想定した乾電池もしくは発電式）
- ベビーフード（アレルギー対応食を含む）
- 器・スプーン
- 小児用紙おむつ
- おしりふき・ウェットティッシュ
- 抱っこひも
- 授乳用ポンチョ
- 乳幼児用着替え
- ベビーバスなどの赤ちゃんのお尻を洗うためのもの
- 消毒用アルコール



介護用品

- 大人用紙おむつ
- おしりふき・ウェットティッシュ
- 器・スプーン
- 介護食（トロミ剤）
- シート（おむつ交換時に使用）



家庭に必要な備蓄については、四日市市発行の
家族防災手帳（平成27年8月配布）なども参考にしてください。



避難所運営マニュアル & 地域防災活動のチェックリスト

災害時に、心身の健康や安全面での影響をより受けやすい、高齢者・障害者・乳幼児・妊産婦・女性などへの配慮と、衛生・栄養などの面からの対策を進めるためのチェックリストです。

このチェックリストを活用して、あなたの地域の避難所運営マニュアルおよび地域防災活動を見直してみましょう！



(1) 平常時の地域防災活動

防災活動の質を向上させ、担い手を広げ、後継者を育てるためにも、以下のような取り組みが不可欠になります。

●現在のあなたの組織の女性比率はどうでしょうか？

女性役員 人 / 全役員 人 ⇒ () %

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員に女性が3割以上いる | <input type="checkbox"/> 若い世代が参加しやすいよう、会合を開く曜日や時間を工夫している |
| <input type="checkbox"/> 自主防災組織の役員に、子育て世代、福祉関係者が必ず入るように工夫している(民生委員・児童委員など) | <input type="checkbox"/> 一人ひとりの負担を小さくすることで、参加・協力が得やすくなるようにしている |
| <input type="checkbox"/> 地域の防災活動を自治会関係者だけでなく、地域の多様な団体と連携して行っている(P T A、子ども会、民生委員・児童委員、地域の子育てや福祉のサークルなど) | <input type="checkbox"/> 女性や若者が発言しやすい雰囲気、やりがいのある場を日頃から意識して作っている |
| | <input type="checkbox"/> 防災訓練や学習がマンネリ化しないよう、地域の多様な立場の人の関心に合わせて内容を工夫している(親子向け防災教室、介護&防災学習会など) |

(2) 避難所運営マニュアル

① 施設の利用方法、避難所のスペース

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 女性の参加のもとで協議している | <input type="checkbox"/> 安全で行きやすい場所の男女別トイレ(仮設トイレは、女性用を多めにする) |
| <input type="checkbox"/> 介護が必要な人を抱えた家族や障害のある人から意見を聞いている | <input type="checkbox"/> 車イスの人など誰でも使えるトイレの設置 |
| <input type="checkbox"/> 異性の視線が気にならない物干し場、更衣室、休養スペース、授乳室の設置 | <input type="checkbox"/> 女性用トイレ・女性専用スペースへの女性用品の配置 |
| <input type="checkbox"/> 間仕切り・パーティションなどの積極的な活用 | <input type="checkbox"/> 安全で誰もが使える入浴設備の設置 |
| <input type="checkbox"/> 適切な通路の確保、段差の解消 | <input type="checkbox"/> 掲示物にやさしい日本語、ルビ、ピクトグラム(7ページ参照)、多言語を用意してある |
| <input type="checkbox"/> 乳幼児のいる家庭のためのエリアの確保 | <input type="checkbox"/> 大きな紙面で情報提供をする場を設置 |
| <input type="checkbox"/> 介護・介助が必要な人のためのエリアの確保 | |
| <input type="checkbox"/> 感染症の人などの看護のためのエリアの確保 | |
| <input type="checkbox"/> 単身女性や女性のみ家族のためのエリアの確保 | |
| <input type="checkbox"/> 子どもたちの遊び場・勉強できるエリアの確保 | |

② 避難所の運営体制や運営方法

<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 管理責任者には男女両方を配置している <input type="checkbox"/> 運営組織の役員への女性の参画を促進している(女性役員の割合を少なくとも3割、できれば半数) <input type="checkbox"/> 運営組織に、次のような多様な立場の代表を入れている <ul style="list-style-type: none"> ・介護、介助、医療的配慮が必要な人(障害者自身や家族・支援者など含む) ・PTA、乳幼児のいる家族 ・中学生や高校生 ・外国人(居住者が多い地域の場合) <input type="checkbox"/> 避難者による食事作り・片付け、清掃などの負担が、特定の性別や立場の人に偏らない体制にしている(男女を問わずにできる人たちで分担) <input type="checkbox"/> 女性用品(生理用品・下着など)を女性の担当者が配布する体制にしている 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 女性たちの要望や困りごとを、広く積極的に聞き取り、運営に反映させる体制にしている(女性リーダーによる意見の集約と、アンケート票の活用や意見箱の設置などの工夫) <input type="checkbox"/> 子どもの見守り体制を作っている(世代を超えた協力も含めて) <input type="checkbox"/> 高齢者・障害者などに向けた環境改善体制づくりに努力している(バリアフリー化、ポータブルトイレの設置) <input type="checkbox"/> 支援に直接役立つ形での避難者名簿の作成と、情報管理を徹底している(性別、年齢、健康状態、保育や介護を要するかなど) <input type="checkbox"/> 相談体制の整備、専門職と連携したメンタルケア・健康相談の実施のため、個室や間仕切りなどを活用するなど、プライバシーが確保されたスペースが用意してある
--	--

③ 衛生対策

<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 避難所の防じん対策(防じんマスクなど) <input type="checkbox"/> 手洗いなどの手指の清潔対策(消毒用アルコールなど) <input type="checkbox"/> トイレの使用方法・汚物の処理などの衛生対策 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 感染症(インフルエンザ、ノロウイルスなど)の対策(マスクなど) <input type="checkbox"/> 処置室などの衛生対策 <input type="checkbox"/> 避難生活が長引いた場合に備えた、保健師などと連携した継続的な対応体制づくり
--	---

④ 暴力防止・安全の確保(性暴力も含む)

<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 男女一緒に行う防犯体制(女性も防犯担当者に入り、匿名で相談を受ける) <input type="checkbox"/> 就寝場所や女性専用スペースなどの巡回警備 <input type="checkbox"/> 暴力・性暴力などを許さない環境づくり(照明の増設、危険箇所の立ち入り制限、男性を含めた注意喚起、女性・子どもからも意見を聞いて実施する) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 防犯ブザーやホイッスルの配布 <input type="checkbox"/> 生活の不安や悩み、暴力・性暴力など被害などに関する、警察や行政の相談窓口情報の周知(男性向け相談窓口も含む) <input type="checkbox"/> 配偶者からの暴力の被害者などの避難者名簿の作成と情報管理を徹底している
---	--

⑤ 在宅避難者・指定避難所以外の支援

<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 在宅避難者や指定避難所以外の避難者情報の収集方法の確立(初期には特に要配慮者の把握) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 在宅避難者のいる場所への食料・物資配布と情報伝達手段の確立、協力体制づくり
---	--

避難所運営の流れの例（時系列チェック）

時間	発災日		2日目	3日目以降	
	避難者収容	～ 24時間	～ 48時間	～ 72時間	
動き	収容直後の混乱期		避難者の多い時期		
	開設・運営準備		避難所運営		
避難所運営本部	運営本部	→ すぐに取り掛ります <input type="checkbox"/> 避難所内の運営本部の設置	⇨	<input type="checkbox"/> 対策本部や関係機関との連絡調整、会議開催	
	総務	→ すぐに取り掛ります <input type="checkbox"/> 周囲の安全の確保・避難スペースの整理	⇨	→ 混雑が落ち着いたら <input type="checkbox"/> 住居・共有スペースの配置、関係機関との調整 <input type="checkbox"/> 対策本部や関係機関との連絡調整、会議開催	
	広報	→ 被害や避難者数がわかったら・開設したら <input type="checkbox"/> 状況や開設の報告 <input type="checkbox"/> 避難所ルールの掲示など	⇨	→ 混雑が落ち着いたら <input type="checkbox"/> 各種情報の受発信 → 混雑が落ち着いたら <input type="checkbox"/> ルール周知・防犯・防火	
	管理	→ すぐに取り掛ります <input type="checkbox"/> 避難者数の把握	⇨	→ 混雑が落ち着いたら <input type="checkbox"/> 名簿の作成、マスコミ対応 → 避難者名簿ができたなら <input type="checkbox"/> 入退所者の管理	
	保健衛生	→ すぐに取り掛ります <input type="checkbox"/> トイレの確保	→ 混雑が落ち着いたら <input type="checkbox"/> 水の確保	⇨	→ トイレが確保できたら <input type="checkbox"/> トイレの使用
	救護	→ ペット連れの被災者 <input type="checkbox"/> ペット連れ被災者対応	⇨	→ 混雑が落ち着いたら <input type="checkbox"/> 衛生環境の整備	
		→ すぐに取り掛ります <input type="checkbox"/> けが人などへの対応	⇨	→ 混雑が落ち着いたら <input type="checkbox"/> 救護体制の確保	
	食料・物資	→ 高齢者・障害者・乳幼児・外国人など <input type="checkbox"/> 要援護者への対応		⇨	
			→ 被災者数がかかったら <input type="checkbox"/> 備蓄物資の活用	⇨	→ 支援物資が届き始めたら <input type="checkbox"/> 物資調達・管理・配布
	ボランティア	※関係機関や団体との調整必要		⇨	→ ボランティアの支援が始まったら <input type="checkbox"/> ボランティアとの協力

※この表はあくまでも活動の目安であり、地域や避難者・避難所の状況により異なります。避難所開設やその後の運営について、避難所にいる地域のみなさんで役割を分担し行いましょう。

本手引を活用して訓練や避難所運営マニュアルの見直しを行いましょう

参考・出典

- 『命とくらしを守る避難所運営ガイドライン』（盛岡市・もりおか女性センター）
- 『こんな支援が欲しかった！現場に学ぶ、災害支援事例集』（東日本大震災女性支援ネットワーク）
- 『スフィア・プロジェクト』（人道憲章と人道対応に関する最低基準）
- 『仙台市避難所運営マニュアル』（活動編・マニュアルシート）（仙台市消防局防災企画課）
- 『男女共同参画の視点からの防災・復興 取組指針』（内閣府）
- 『男女共同参画の視点からの防災・復興の対応について～東日本大震災での被災者支援～』（内閣府）
- 『男女共同参画・多様性配慮の視点で学ぶ 防災ワークブック』（減災と男女共同参画 研修推進センター）
- 『東日本大震災と婦人（女性）防火クラブ 被災地のクラブ員が語る被災体験と活動の記録』（財団法人日本防火協会）
- 『避難所情報伝達キット』（三重県）
- 『ビッグパレットふくしま避難所内女性専用スペース』（福島県男女共生センター 男と女の未来館）
- 『防災基本計画』（内閣府）



実際に、防災訓練などで実践することが大切です。みんなで避難所運営を考えるツールとして、HUG（避難所運営ゲーム）やクロスロードなどを活用したりして、意識を共有することも大切です。

- 協力／減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表 浅野幸子
聖路加国際大学 五十嵐ゆかり
- 発行／四日市市危機管理室 〒510-8601 三重県四日市市諏訪町1番5号 TEL 059-354-8119
- 共催連絡先／四日市市自治会連合会事務局 TEL 059-354-8287
四日市市地区防災組織連絡協議会 TEL 059-354-8119
- 発行日／平成28年2月